

教科等研究会（中学校総合的な学習の時間部会） 令和3年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

生徒が主体的・創造的・協同的に取り組むことができる探究活動の在り方
～生徒一人ひとりが輝く「分かる・できる」「楽しい」授業づくりを通して～

2 研究経過

	期日	人数	活動内容	場所
第1回	6/8（火）	9	研究テーマ・計画・組織等協議（半日）	御船中学校
第2回	8/3（火）	9	①地域の方からの講話 ②年間計画等の見直し、作成（半日）	矢部中学校
第3回	10/13（金）	8	研究授業・授業研究会（半日） 単元名：「人はなぜ働くのだろう」 授業者：教諭 鶴野 一	木山中学校
第4回	1/28（金）		新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	

3 研究の概要

(1) 研究の内容

本部会では、新学習指導要領の完全実施を視野に入れて、「生徒が主体的・創造的・協同的に取り組むことができる探究活動の在り方」を研究テーマに設定して取り組んだ。また、新学習指導要領の改訂の趣旨と要点として、「探究的な学習の過程」「各教科等で育成する資質・能力を相互的に関連付けや育成」が重視されている。本部会では、各教科で育成した資質・能力を総合的に発揮し、未知の状況に対応できる力を身につけさせたいと考えた。そのためには生徒が学びたいと思えるカリキュラムを計画的に設定し、「分かる・できる」「楽しい」という学習への満足感を高めることを目指し、副題に取り入れて研究を推進していくこととした。（資料1）



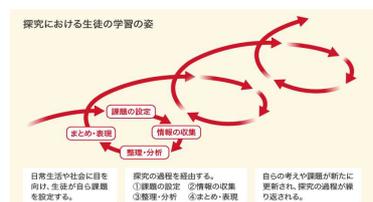
〔資料1〕研究構想図

① 学習指導要領趣旨理解の研修（第1回）

本年度も、部会員の構成が大きく代わったため、学習指導要領の改訂の趣旨や要点・目標・内容に関する改善点を確認するとともに、新学習指導要領の方向性について研修を実施した。

まずは「総合的な学習の時間とは何を学ぶ場なのか」を考え、意見交流を行った。社会に出るために必要なことを学ぶ場、調査・発表・体験活動などの経験を通して学ぶ場など様々な意見があった。コミュニケーションや社会性等の育成を通して、未知の状況に対応できる力を身につけさせたいということを確認した。そのために必要なことのひとつとして「探究的な学習」が挙げられ、探究のプロセスを意識することの重要性を共有した。（資料2）

また、総合的な学習の時間では各学校の実態にあわせて、意図的に探究的な学習を計画することが求められている。そこで、各学校の学校教育目標に基づいた学校経営案の全体計画・各教科と関連した年間活動計画・単元計画の見直しを行った。



〔資料2〕探究的な学習

① 改訂の趣旨と要点

課題

▶ 資質・能力の育成等に
学校による差

▶ 「整理・分析」「まとめ・表現」の充実

Q5.この課題を克服するためにどんなことが必要でしょうか？

※ 独立行政法人教育政策実施機構

〔資料3〕課題点の明確化

② R-PDCAサイクルプランの演習（第1回～第4回）

探究的な学習のサイクルを総合的な学習の時間部会に合わせて演習を行った。R-PDCAサイクルを通して、自分で課題を設定し解決していく過程を1つのシートで振り返ることをねらいとした。

R（リサーチ：状況把握）では、自分の学校の全体計画などが新学習指導要領に沿った文言になっているかを見直した。また、それぞれの学校の実践を振り返り、特色や改善点などを記入し、意見交流を行った。

P（プラン：計画）では、今年度の研究テーマを具現化するために実践したいこと（目標）を記入した。

D（ドゥ：実行）では、全体計画等の見直しや、各学校で今年度実践を始めたことなどを記入し、お互いの状況を共有した。

C（チェック：評価）では、研究授業の評価の視点を「新学習指導要領に沿った計画作成」「探究的な学習の実践」「継続的な評価活動」の3つに絞り、授業研究会で意見交流を行った。また、自分の実践と重ねて考え、年度初めに設定した目標が具現化できているのかを省察した。

A（アクション：改善）では、各学校の実践レポート研修の中で、「この1年で前進できたと感じること」「もっと知ってみたいと思ったことや改善点」などを振り返り、次年度へつなげるようにした。

The image shows a form titled 'R3 総合的な学習の時間 R-PDCA サイクルプラン' (R3 Comprehensive Learning Time R-PDCA Cycle Plan). It is divided into four main sections: Plan (計画), Do (実行), Check (評価), and Action (次へ). Each section contains specific questions and checkboxes for reflection and planning. A central diagram shows the PDCA cycle with 'Plan', 'Do', 'Check', and 'Action' steps. The form also includes fields for 'Name (Middle School)', 'Research Theme', and 'Comments'.

〔資料4〕R-PDCAサイクルプラン

③ 地域の方（鳥越靖基さん、岸千恵さん）による講話

山都町で有機農業をされている鳥越靖基さんと岸千恵さんに講話をしていただきました。（資料5）

鳥越さんと岸さんが東京から山都町に移住されるきっかけは、東日本大震災の時のボランティア活動でのことでした。炊き出しで焼きそばを焼いているときに「野菜が食べたい」という声を多く聞かれました。水も野菜も安心安全に手に入る状況ではなく、まさに「食べることは命である」ことに気づかれました。そのときに「自分の中の何かを変えていきたい。安心安全な有機農業をしてみたい。」と決心されました。移住して数年後、熊本地震がありました。益城町に有機農業でとれたお米と野菜で炊き出しをすることができ、東日本大震災の時には叶えられなかったことを叶えることができたそうです。

今は「今ある資源をどういかしていくか」をテーマに持続可能な農業を目指されています。もともとされていた音楽活動と有機農業をつなげた活動の話や、施肥設計ソフトを用いて土をチューニングしたり、SNSで活動を発信したり、仲間とつながりながら農業をしている話などを聞かせていただきました。今後、有機農業を学ぶ施設をつくりたいという夢を語っていただきました。（資料6）

最後にミニコンサートを開いていただきました。歌詞の中に「この場所から始めよう」という言葉があり、自分の人生を自分で切り拓いてきた鳥越さんの力強い生き方が伝わってきました。（資料7）また、「学んでいくとイメージーションが生まれる」という言葉から、「学ぶ意味」を感じ取ることができました。

その後、是非鳥越さんの話を生徒にも聞かせたいという参加者の思いから、講演会を実現させた学校もありました。

【参加者の感想】

何事にも前向きにワクワクして活動されていることが伝わってきました。学んでいく切り口を学ばせていただきました。是非、生徒にも話を聞かせたいと思いました。



〔資料5〕第2回教科等研究会



〔資料6〕鳥越さんによる講話



〔資料7〕ミニコンサート

(2) 成果と課題

成果

- ・新学習指導要領の完全実施により、全体計画の考え方と様式が大きく変わったことをふまえて、各校での全体計画、年間活動計画、単元計画の見直し・作成を行うことができた。
- ・R-PDCAサイクルプランの取組などを通して、総合的な学習の時間の進め方に見通しを持つことができ、探究的な活動の流れをつかむことができた。
- ・地域で農業をされている方との交流ができたことで、学ぶことの意味を改めて見つめ直すことができた。各学校で地域人材の活用のモデルとすることができた。

課題

- ・新学習指導要領の目標と内容を網羅しながら、単元計画をさらに充実させる必要がある。また、単元計画の完全作成と年間活動計画にリンクさせた探究的な学習の展開を計画段階として完成させる必要がある。
- ・地域学習の系統性・連続性・発展性があると、各学校の特色を活かした学習になると考えられる。(嘉島中の全体計画の中の「学習に関わる人、場所」の項目を各学校で参考にしたい。)

4 実践事例

(1) 授業研究会の概要

単元名「人はなぜ働くのだろう」

授業者：木山中学校 鶴野 一 教諭

本授業は、2年生の進路学習「情報収集・まとめ・表現」の授業であった。(資料8)

① 自評

- ・2学期に新型コロナウイルス感染予防のため、職場体験実習でなく、「職業体験講座」に切り替えた。今回は学年での発表会にむけたまとめの第1時であった。
- ・iPadを活用し、ロイロノートで写真データを用いて個人でまとめを行うことにした。コースによって体験したことが異なるので、まとめ方にも個人差が出るが、学年の発表会はコースごとに行う予定なので、お互いのまとめをさらに練りあって良い発表ができるようにしたい。

② 質疑応答

Q グループでつくったものと班でつくったもののどちらで評価をするのか教えてほしい。

A ひとりでまとめるのが厳しい生徒もいるので、班で振り返りながら作成できればと思う。個人のシートで最後に次につなげるためのコメントを書くところがあるが、そこを自分のことと重ねて書いてほしい。働くとはどういうことなのかについて、自分なりの表現で書いているかというところを評価していきたい。

Q ロイロノートは他の教科でも活用されているのか。

A 他教科でも写真を提出したり、思考判断のツールや道徳での意思確認、アンケートの集計など様々な場面で活用されている。思考の流れを可視化するのに、とても便利である。

③ 研究協議

この授業において、研究テーマ「生徒が主体的・創造的・協同的に取り組むことができる探究活動の在り方」の具現化に近づいていると感じた場面はどんなところだったのかを協議した。

(資料9)

【主体的】～環境整備の重要性～

- ・ひとり1台ずつのタブレットを用いて、自分なりの表現でまとめることができた。
- ・インターネットなどを利用して、情報収集を行いながらまとめることができた。
- ・キーボード入力が苦手な生徒も、簡単に入力できるシステムがあって作業が進んでいた。

【創造的】～時間の確保やタイムスケジュールのマネジメン～

- ・ある程度の型があったからこそ、そこを入り口にしてアレンジしている生徒がいた。
- ・振り返りの場面で友だちのデータを紹介することで、次の時間の工夫点が見つかった。

【協同的】～見通しをもたせる～

- ・グループ内で体験したことを思い出し、教え合い、共有し合うことができた。
- ・単元の流れが板書してあり、発表会までの目的意識を持たせた。



〔資料8〕研究授業の様子



〔資料9〕研究協議の様子

(2) 学習指導案

① 本時の目標 働くことの意義やその素晴らしさについて、職業体験活動を通して学んだことをまとめることができる。

② 本時の展開

進	学習活動（○予想される生徒の発言）	支援及び評価
導入 5分	<p>1 前時までの活動内容を確認する。</p> <p>2 本時のめあてを共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【本時のめあて】 職業体験活動を通して学んだことをまとめ、新聞を作ろう。</p> </div>	<p>1 5つの職業体験コースを紹介するスライドショーを見せ、自分たちが体験したことだけでなく、他のコースの内容も簡潔に伝える。</p> <p>〔見方・考え方を働かせて目標達成に向かう方向付け〕</p> <p>2 今回の授業でまとめる内容を説明し、体験活動した内容を適切にまとめることができるよう、見通しをもたせる。</p>
展開 40分	<p>3 職業体験活動のまとめを行う。</p> <p>(1) 同じコースどうして班を作り、話し合いながら、体験活動で実際に行ったことをまとめる。</p> <p>○私たちのコースでは、△△な活動をしたよね。</p> <p>○一番印象に残ったことは、□□です。</p> <p>(2) 個人で職業体験活動の振り返りをまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【期待される学びの姿】 職業体験活動の働くことの意義を理解し、将来社会人として働いていくために必要なことを考え、学校生活の中で実践する姿</p> </div>	<p>3 ・職業体験活動で実際に活動したことをお互いに出し合いながら、個人での振り返りにつなげることができるようにする。</p> <p>・職業体験活動の時の写真などを準備し、各自新聞作成に必要なものを選んで使わせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【具体の評価規準】思考・判断・表現 (方法：観察・ワークシート)</p> <p>・職場体験活動で学んだことを、必要な資料を適切に組み合わせ、自分なりの表現でまとめようとしている。</p> </div> <p>【到達していない生徒への手立て】</p> <p>・同じコースの生徒どうして活動内容を確認しながら、体験したことを想起させ、文章にまとめるように助言する。</p>
終末 5分	<p>4 各グループの新聞作成の状況を発表し、全体で共有する。</p> <p>5 めあてが達成できたか振り返りをする。</p>	<p>4 各グループの作品をモニターで画面共有することで、工夫点などを次回の新聞作成につなげるように促す。</p> <p>5 今回の学びを今後の学校生活につなげることを伝える。</p>

③ 本時の評価

○評価規準 ①他者に自分の考えが伝わるように、目的に合わせて情報を分類したり、効果を意識して表現方法を組み合わせたりしている。

②相手や目的に応じて自分自身の考えをまとめ、適切な方法で表現している。

○評価方法 ①②観察・ワークシート

○評価時期 ①②授業中と授業後

